

# 平成25年度 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果（確定値）の概要

## 1 目的

- 1 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況及び、読み解く力に関する定着状況を把握し、全部における教育行政施策に生かす。
- 2 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- 3 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- 4 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める

2 実施日 平成25年7月4日(木)

3 対象学年 都内公立小学校 第5学年 都内公立中学校及び中等教育学校 第2学年

## 4 調査内容

(1)	<b>児童・生徒の学力向上を図るための調査</b>	
	【小学校】4教科:国語・社会・算数・理科 【中学校】5教科:国語・社会・数学・理科・外国語(英語)	
	<b>A</b> 「学習指導要領に示されている教科の目標及び内容」の実現状況に関する内容	
	<b>B</b> 「読み解く力」の定着状況に関する内容	
	【取り出す力】文章や図表、グラフ等を手がかりに、問題を解くのに必要な情報を正確に取り出す力	
	【読み取る力】取り出したいくつかの情報を比べたり、関連付けたりして、問題の内容を読み取る力	
	【解決する力】読み取った内容と、自分の知識や経験とを照らし合わせて、意図や背景、理由を考えて解決する力	
	※A・Bは説明上、事務局が追記した表現。	
(2)	<b>児童・生徒質問紙調査</b>	児童・生徒の生活や学習に関する意識や実態に関する調査
	<b>学校質問紙調査</b>	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況に関する調査

## 5 調査結果

東京都・武蔵野市:東京都の示す最終結果より引用

【平均正答率 %】

	小学校 第5学年								中学校 第2学年							
	武蔵野市				東京都				武蔵野市				東京都			
	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計	A	B	AB の差	合計
国語	76.8 (+4.5)	63.4 (+6.8)	【13.4】	74.8 (+4.8)	72.3	56.6	【15.7】	70.0	73.7 (+5.4)	74.2 (+2.6)	【0.5】	73.8 (+6.7)	66.7	69.6	【-2.9】	67.1
社会	70.8 (+6.8)	61.7 (+7.6)	【9.1】	68.8 (+7.0)	64.0	54.1	【9.9】	61.8	58.2 (+2.9)	40.5 (+6.4)	【17.7】	54.6 (+6.2)	52.3	33.2	【19.1】	48.4
数学 算数	75.1 (+9.0)	56.6 (+12.2)	【18.5】	71.9 (+9.6)	66.1	44.4	【21.7】	62.3	61.8 (+9.1)	37.9 (+6.4)	【23.9】	55.9 (+9.9)	51.7	28.8	【22.9】	46.0
理科	74.5 (+6.7)	56.2 (+8.0)	【18.3】	69.2 (+7.1)	67.8	48.2	【19.6】	62.1	58.2 (+7.8)	54.0 (+7.0)	【4.2】	57.7 (+9.0)	49.2	44.9	【4.3】	48.7
英語									69.3 (+6.6)	44.9 (+8.4)	【24.4】	64.2 (+8.9)	60.5	35.2	【25.3】	55.3

※武蔵野市の結果の下段( )は、「都との差」。「都との差」及び「ABの差」については、事務局で追記した数値。

## 6 本市の状況の分析

- すべての教科、項目で東京都の平均を上回っており、基礎・基本の定着が図られ、活用できているといえる。
- 多くの教科でAとBの差異が東京都と比べて少ないことから、「学習指導要領に示されている教科」の基礎・基本の事項を、「取り出し」、「読み取り」、「解決する」力も身に付いているといえる。
- ▲ 今後は、さらにB「読み解く力」について、各校の授業改善を通じて向上を図っていく。